

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 1階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	令和5年9月5日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0190201251-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が自分のペースで生活できるように、個別に合わせたタイミングで支援し、マイペースに暮らせる環境づくりに力を入れています。
職員間で話し合いしやすい関係作りに取り組み、話し合いの時にすぐに会議が出来るよう取り組みご入居者様に安心した生活が提供できるよう取り組んでいます。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた静かな住宅地に位置する2階建2ユニット構成の来年1月に開設8年目を迎える事業所である。周辺には、スーパー、保育園、公園、高齢者施設等がある。同法人特別養護老人ホームが近隣の徒歩1分の距離にあり、防災対策や行事等で連携している。合同夏祭りには家族の参加を得て一緒に楽しみ、水害想定の手書訓練では保育園や別法人グループホーム、町内関係者も加わり意見交換を行っている。運営推進会議では毎回、身体拘束の研修状況等を報告し、法人の利用者権利擁護指針の共有や強化している点を伝えている。また、家族からの意見を貴重なものと捉え、アンケートを実施し内容を支援に活かしたり、丁寧な在り方を検証し対応を見直す機会となった事例もある。野球好きの利用者へは試合記事の提供や歌が趣味の方へは歌う時間を作るなど、個人に合わせた会話づくりから本人の望む生活を引き出して支援につなげ、ソファ位置や食席も利用者の意見で決めるなど、権利を擁護する生活支援が窺える。歩行ふらつきの状況でも常に歩くことが止まらずにいた利用者が動線上に一休みできる椅子を設置した事で座って職員に話しかけ穏やかに過ごせるようになった事例もある。浴室にリフト付きシャワーキャリーを導入しており、湯船に浸かる事での血行改善や心身のリラックスなどの入浴が利用者全員可能となっている。地域、家族の協力や援助を得て、利用者の思いや希望、意見を尊重し共に暮らしを創り続けている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざし、共に生き共に感じ合い、共に喜びあえる暮らしを創りつづける」という理念に基づき、入居者様に寄り添い、安心して暮らせるよう、職員間で話しあい、より良い方法を日々検討している。	重要事項説明書の運営方針に地域密着型サービスの社会的役割を定め、当方針の体現に向け、事業所独自理念を標榜している。理念に基づく支援となるようサービス担当者会議での検討や法人行動指針を再確認する機会を設けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが落ち着いたも地域とのかかわりはほとんどない。	町内清掃の参加やスーパーでの買い物、外出で美容室を利用する方がいる。同法人特別養護老人ホームと連携し、保育園児の遊戯発表会や夏祭りを開催し交流している。1階ユニットは介護度が高く行動を共にするなどの難しい部分はあるが、保育園から運動会DVDの提供があるなど、状態に応じた関わりがなされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設での経験、研修で学んだ知識や技術を運営推進会議の場をかりて、発表、理解の輪を広げる事が出来るように努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で施設の現状や活動の内容を報告している。地域の方やご家族様からの意見なども聞き、サービス向上に努めている。	地域包括支援センター職員、家族の出席を得て、参集にて開催している。事業所からの報告とともに、運営推進会議に係る「ご意見アンケート」の結果の提示や地域包括支援センターから情報提供がなされ協議している。会議案内、議事録を家族、関係者に送付している。	地域に根差し、という理念実践の推進に向け、メンバー拡充へと動き出すところであるので、「認知症グループホームにおける運営推進会議ガイドブック」も参考にするなどし、会議推進に期待したい。また、報告事項として、職員の入退職について充足を期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市へ毎月初めに入居状況調査票の提出、アンケート依頼への報告を実施している。	市の担当部署へは入居状況調査票や依頼アンケートの提出、事故報告書の郵送、生活保護課と電話でやり取りを行うなど、適正な運営の維持に向け協働関係を築いている。区の管理者会議に出席し情報連携に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内で身体拘束委員会があり定期的に委員会を開催している。	身体拘束廃止に関する指針を定め、身体拘束委員会を定期に開催している。年2回これらに係る内部研修を実施し、「不適切ケア」「高齢者虐待や身体拘束は何故起こるのか」を学んでいる。玄関の施錠は防犯上の理由により昼夜施錠しているが、利用者の外出を制限するものではない。	身体拘束は行っていないが、更に利用者の人権を尊重した適切な対応について、利用者の状態像や支援事例を通じ、身体拘束委員会で検証する意向であるのでその実現に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内での勉強会で職員に虐待に関わる意識をもって頂き、管理者は注意を払い、防止に努めている		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度の関わるケースが無い為具体的に関わることはありませんが、今後研修など通して学んでいきたいと思う。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご家族様と契約書の読み合わせを行い、質問等がありましたら、お答えしております。また退去の際など今後想定されることなど、お答えすることがあります。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の玄関に意見箱がありますが、投函されてはおりません。ご家族様来られる際、できる限りお話を聞かせていただくよう、また、運営推進会議など来られた際に意見を聞かせていただくことがあります。	利用者からの「家族に会いたい」の意見には、家族に面会の依頼や電話で声を聞き安心してもらい、「帰りたい」には気持ちを受け止め落ち着く言葉を伝えている。家族からの意見を受け、レクリエーション活動に反映させた事例や依頼事への判断は、家族と再確認し対応を行う事とするなど、職員の認識の共有に向けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際などご家族様などからお話をお聞きしております。	年2回、法人の評価制度活用機会に管理者が職員と面談し、意見や要望を聞く機会やその都度、話しをする事がある。全体会議やユニット会議で職員が意見を出し合い、シフト状況を鑑みた業務手順の見直しなど、一緒に話し合い調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会議や勤務時間の中で、職員と一緒に働くことにより、各々頑張っているところややりがいなどを聞き、日々の業務に務めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修はありますが、外部研修にはまだ参加していないため、今後研修を受ける機会を作りたいと思っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流などは出来ておりません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご自宅や入院先に行き面談を行い、ご家族様やご本人の要望など聞いております。入所後どのような生活をしていきたいか聞き、相談しやすく安心して頂ける環境づくりにつなげている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に管理者、職員とご家族様、ご本人とお会いし、生活歴、性格など伺い今後も安心して過ごせるようご要望に耳を傾けております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握したうえでできる、サービスの提供を伝えていく。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の出来る事を見つけ、役割を探し利用者様と職員との関係が築けるように努めております。今まで出来なかった事も他入居者様や職員と一緒に行うことで関係を気づいています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況をご家族様に伝え、ご希望や思いを聞き日々の生活に生かしていく。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様やご本人から馴染みの人や場所を伺っているが中々行けることや合うことが難しく、施設での職員や他入居者様と馴染みの関係になり安心して過ごせるようにしております。	家族面会はフロアと居室内で和やかな時間を過ごせるようにし、家族と自宅や墓参等に行く方もいる。利用者が退院後に職員へ「見たことがある、覚えていいる」と伝える場面もあり、馴染みの関係が築かれているのが窺える。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士楽しく生活できるようにする。レクリエーションなども行い職員が間に入りながら良い関係を築けるよう心掛けております。			

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時に今後の生活について話をお聞きしたり、また、その後気になる点がありましたら、お話を聞きするようになっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話から利用者様の思いなどを聞き出来る限りご希望の対応をできるようにする。会話が難しい方はこれまでの生活歴や様子を見ながらご本人様が望む生活を提供していきます。	利用者との関わりから楽しみや嬉しい事を把握したり、言葉での表出が難しい場合の一例では、その都度、起床離床を本人のペースに合わせ、希望の生活となるよう対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される前にどのような生活をしてきたか伺い安心した環境で生活できるように努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活の中で一人一人の生活リズムを考え、体調や心身状態の変化に配慮し日々の生活を提供。職員同士での送りの際も気づいた事は伝える。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一度のフロア会議で職員が気づいた点やご本人の望む生活、ご家族様の思いを聞きケアプランを作成しております。	アセスメントはセンター方式を活用しニーズやしたい暮らしを分析している。フロア会議で利用者状況に伴う支援を共有しモニタリングに反映させている。本人、家族の意向をその都度確認し、利用者の安心できる生活の実現に向けた介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活を記録し、職員が共有し全体を把握しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護計画以外でも、都度職員と話しをし、柔軟に解決していくようにしております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	なかなか外出ができていません。今後は入居者様に行きたいところなどないか聞き、外出出来たら良いと思っています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に往診医療機関を紹介している。その他入居前からかかりつけの医療機関の継続を行っています。	協力医療機関の月2回の内科・必要時の歯科の往診や週1回個別に歯科衛生士による口腔ケアを受けている方もいる。利用開始前の医療機関受診やその他の必要な診療科目は事業所と家族が共同に対応している。週1回医療連携で看護師が訪問している。	

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携や往診の看護師と相談を行いアドバイスをいただき参考にすることがあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際や入院中など、ご本人様の様子について、どう施設で過ごしていたかなどできる限りはやくお答えできるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族様の意向をお聞きし、施設内でどこまでできるか、お伝えし、できる範囲での希望に添い、医療と連携を行いそして家族様含め話し合える機会を作っていきたいと思う。	「重度化対応に関する指針」「急変時や終末期における介護及び医療等に関する確認書」を利用契約時に説明し同意を得ている。現在、看取りは行っておらず、病院への移行支援が主であるが、医師の判断や家族の希望により、食事の経口摂取が可能な時期まで対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の際、連絡網やマニュアルに添い対応を行っております。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設内での避難訓練、地域連動の避難訓練を実施している。	令和4年10月夜間通報訓練、今年3月に同法人特別養護老人ホーム・隣接グループホーム・保育園の担当者、町内関係者の参集の下で水害における書面訓練と職員のみで日中・火災想定の手紙訓練を行った。協力者、災害備蓄品を確保し、BCPを策定している。	令和5年12月日中・夜間の両想定で火災避難訓練を予定している。誘導や避難経路などに課題を示していることから、消防署の指導、協力を得た避難訓練となるよう、その実施に期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、更衣や排泄時などプライバシーの配慮を行っております。	法人の利用者権利擁護指針に基本的人権を遵守するサービス提供のあり方を明示し、当内容を会議の場で再確認している。個人情報記録類は事務室で管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志を確認し、お手伝いや安心できる選択肢ができるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の気持ちや身体状況に合わせ職員都合ではなく入居者様のペースに合わせて対応しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝ご本人に様に着たい服を選んでもらっています。髪型などもご本人に希望のカットなどしております。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りの際は盛り付けなどを入居者様にやっていただき、職員も一緒にやることにより楽しみながら行っております。後片付けの際も一人一人の状況に合わせ、お手伝いして頂いております。	主食と汁物は事業所で調理し、副食は調理済みが届いており、行事食にも対応した献立である。おやつは南瓜プリンや柿など時節を感じるものや誕生日はケーキで祝っている。夏祭りには家族と一緒に屋台メニューを楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に必要な水分量の把握、食事量の把握に努めている。食事が進まない時などは声掛けし召しあがって頂き、往診医に状況報告をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、実施しております。夜間帯は義歯をお預かりし洗浄剤につけております。歯科往診もあり配慮すべき点を把握しております。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のタイミング確認しトイレ誘導や声掛けを行っております。	日中は全員がトイレで排泄しており、トイレ誘導のタイミングが合い汚染の軽減となっている。夜間は居室で交換する利用者もいる。排泄・水分チェック表に排便状況を詳しく記し適切な排泄支援に向けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝乳製品摂取していただいています。排便の間隔を記録しております。また医師の指示のもと、下剤の調整も行っております。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日で別れ週2回の入浴、ただし、体調や気分に合わせて時間や曜日変更を柔軟に行っております。しかし1名のみ声掛けしても入って頂けず、職員で試行錯誤しています。	入浴の声かけから浴後のドライヤーまで同じ職員が対応し安心感に配慮したり、入浴剤の使用や音楽をかけ、寛いで入浴できるようにしている。入浴を見送りたい方へは清拭対応や翌日に変更している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や様子を見ながら日中も昼寝する事がある。また夜間帯は部屋の照明なども確認し、安心して寝て頂いております。寝つきが悪い方は、職員が寄り添う、話を傾聴したりしております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬提供の際は職員やご本人様に確認を行いミスがないよう提供しております。また医師の処方箋や往診、受診の際、説明などもしっかり聞き内容を職員で共有しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中でご自身で出来る事は行って頂いております。また入居者様との会話の中でそれぞれの思いを聞き提供出来る様にして頂いております。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1階)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが落ち着いても地域とのかかわりはほとんどありません。	自然環境に恵まれた事業所周辺の静かなエリアを散歩コースにし、風景を楽しんだり川辺の鳥を観察することもある。スーパーでの買い物や家族と一緒に外出、外食する利用者もいる。近隣にある同法人特別養護老人ホーム合同の戸外夏祭りを家族参加で楽しんだ。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は施設で管理しております。外出レクの時のみそれぞれお財布を持って頂き好きな物を購入されます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば、電話はしていますが、手紙でのやり取りはありません。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた装飾をしております。職員が毎日清掃を行い綺麗な環境作りを心がけております。	共用空間は居間・食堂ホールとソファを配置した談話スペースのある広い造りで、スタッフコーナーから全居室が見渡せる。ユニットごとに違いはあるが、季節感あるものや花のシール装飾を施している。エレベーターは奥行きがあり、車椅子での複数人移動に余裕がある。天井付けエアコンで温度管理している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の意見を取り入れ、ソファの位置や食席の位置を決めております。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使われていた家具などを持ってきて頂いております。ご本人の使いやすい配置に配慮しております。	居室入り口に名前や写真、目印になる飾りを付け自室と分かるようにしている。居室にはクローゼット、暖房器具を設備し、馴染みの家具やベッド、軽く引き出せる衣袋ケースなどが持ち込まれている。写真や好みの物を置き、安心して過ごせる設えをサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手摺りを設置し安全に立ち上がれるように工夫しております。居室には表札や自身の写真など貼り分かりやすい様にしております。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0190201251		
法人名	社会福祉法人パートナー		
事業所名	グループホームハートの家七番館 2階		
所在地	札幌市北区屯田9条9丁目6-3		
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果市町村受理日	令和5年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご入居者様が自分のペースで生活できるように、個別に合わせたタイミングで支援し、マイペースに暮らせる環境づくりに力を入れています。
職員間で話し合いしやすい関係作りに取り組み、話し合いの時にすぐに会議が出来るよう取り組みご入居者様に安心した生活が提供できるよう取組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNoCd=0190201251-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域に根ざし、共に生きともに感じ合い、共に喜びあえる暮らしを創りつづける」施設開設時の理念を実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの感染対策で地域の方との交流が難しくなっているが、町内清掃や、ご入居者様の近所の美容室の利用等で地域の方との連携を図れるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染対策の為地域の方との直接的な交流が出来ず、積極的な支援方法の提案などは出来ない。感染対策を実施しながら地域の人に向けて支援方法等を伝えていける方法を検討している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ5類に移行後、6月から施設での運営推進会議で地域の方や、ご家族様にご意見をいただきサービス向上につながるよう取り組んでいる。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市へ毎月初めに入居状況調査票の提出、アンケート依頼への報告を実施している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体へ向けて身体拘束を実施しないように虐待、身体拘束チェック表などを使いケアに対する考え方のすり合わせを行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議等で、身体拘束防止委員会を開催し学ぶ機会を設けている。また、虐待につながるような声掛けになっていないか等職員同士で声に出しやすい環境づくりに取り組んでいる。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活支援事業や後見人制度について学ぶ機会を持っていない為運営推進会議等で包括支援センターの方がいらしている時などで学ぶ機会を検討している。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や改定時には利用者様やご家族様に、丁寧に説明し不安や疑問点など尋ね確認しやすいように努めている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設にご意見箱を設置し、定期的なアンケートなどを郵送しご意見いただけるよう努めている。すぐに職員間で共有し運営に反映されている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個人面談や会議で意見や提案を収集し反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の評価や昇給試験を実施し職員の意思確認で各自が向上心をもって働けるように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修が受けやすいように呼びかけ学びやすい環境になっている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	北区のグループホーム管理者連絡会に参加し役員として活動しながら同業者と交流をもち、勉強会を予定している。活動を通じてサービスの質向上に取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の事をまず知る為に困りごとだけではなく、楽しみや、嬉しいことなども会話から聞き取りできるように、関わる時間をとっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを利用される前に困っていることや不安な事をお聞きしておいて、サービス時にその不安が軽減できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面談の際に今困っていることについて伺い、必要としている支援を見極めている、その際他のサービス利用を含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の出来ることを活かしてもらえるように家事のお声掛けをし、職員と一緒にしています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様のお気持ちを一番に考え、ご家族様に協力して頂き一緒に支えて頂けるよう関係性づくりに努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に協力いただき、馴染みの方と関係が途切れないよう、支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人1人が孤立しないよう、集団で行えるレク活動や、個人のご希望に合わせた会話づくり等で関わり合いが持てるように努めている。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了時に今後も相談に乗れるようお声掛けし、退所後も相談等お受けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意思を発せられない方でも、入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握し思いや意向を把握出来るよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に担当のケアマネさんや、ご家族様からお話をお聞きしてご本人様の性格や生活歴など把握し思いや意向を把握出来るよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の会話や表情、行動を観察し、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の把握をし、ご本人やご家族様に相談、確認を行い介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の活用と職員間の申し送りでの情報共有で迅速な検討に心掛けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様やご家族様の状況把握に努め、都度職員と話しをし、柔軟に解決していくよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の公園や美容室、保育園や福祉施設との交流に努め安全で豊かな暮らしが楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望を大切にし、都度確認し同意を頂きながらかかりつけ医に連絡をとり、適切な医療が受けられるように支援している。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内に看護師の配置が無い為訪問診療時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	施設での生活を伝え情報の共有を行い、早期に退院できるよう連絡をとり、病院関係者の方と関係作りを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する可能性が考えられた場合のご意向を入居時に確認している。重度化した場合に改めて御家族様のご意向を伺い、医療とも連携をとり支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に緊急時のシミュレーションを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な施設での避難訓練と近隣の施設と連携を図れるよう合同の避難訓練を実施し協力体制を築いている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様一人一人の尊厳を大事にし、お声掛けの声のトーン等を意識し、更衣や排泄時などプライバシーの配慮を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の意志を確認し、お手伝いや安心できる選択肢ができるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースに合わせ、確認しながら希望に合わせた支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に見てもらい選択して頂いて更衣を支援している。髪を整える時には、ご自分で鏡を見てお好きなように整えられるよう支援している。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事や水分の提供した物や摂取量を確認しながら支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方に合わせた、食べやすい食事形態や水分を用意し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご本人様の状況に合わせた口腔ケア実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の汚染状況や時間を確認しトイレ誘導や声掛けを行いトイレでの排泄が出来るように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝牛乳の提供や寒天ゼリーやヨーグルトのおやつ提供等で予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご入居者様の生活に合わせた入浴日を決め、入浴剤や音楽をかけ入浴を楽しめるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の体調や様子を見ながら日中も臥床して頂く時間を作っている。また夜間帯は部屋の照明なども確認し、安心して寝て頂いている。寝つきが悪い方は、職員が寄り添う、話を傾聴している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬提供の際は職員やご本人様に確認を行いミスがないよう取組んでいる。また医師の処方箋や往診、受診の際、説明などもしっかり聞き内容を職員で共有している。疑問があった場合医師に確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々に合わせた家事や掃除等の役割の提供、嗜好に合わせた好みのおやつ等の提供等を実施している。		

グループホームハートの家七番館

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2階)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日のご希望に合わせた外出等は出来ていないが、天候や気温などに合わせてご本人様の意向に合わせた外出が提供できるように、また、ご家族様の協力も頂き外出できるように支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金の管理を行いながら、買い物や安心の為の所持が出来るように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙をお好きな時にかけられるよう都度お声掛けしている。また御家族様にもお電話頂けるようにお声掛けしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは毎日の清掃で清潔に、配色は白や木目で落ち着いた色を使用し、季節を感じて頂けるような飾りを装飾している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーなどを幾つか配置し、ご自分のお気に入りのスペースを使用して頂いている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用していたなじみの家具や布団、家族で写っている写真などを持参して頂き自分の部屋として安心して頂ける居心地の良い環境になるよう工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレなどに手摺りを設置し安全に歩けるように工夫している。居室には表札やご自身の写真など貼りご自分の部屋だとわかりやすく安心して入れるようにしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホームハートの家七番館

作成日：令和 5年 11月 21日

市町村受理日：令和 5年 11月 28日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の際職員の入退職の報告が不足していた。	地域の方、ご家族への報告を不足なく行い、会議を推進していく。	認知症グループホームにおける運営推進会議ガイドブックを参考にし、報告事項に不足のないよう取り組んでいく。	1ヶ月
2	6	身体拘束委員会の研修内容の充実。	ご利用者様へのケアが、不適切なケアにつながっていないか、個人に対しての検証を実施する。	ご利用者様の状態像や支援事例を通じ、フロア会議等の時間を使い、その方の人権を尊重した適切な対応が出来ているかを話し合う。	9ヶ月
3	35	ご利用者様を安全に避難誘導出来るよう訓練を実施する。	職員全員がご利用者様を安全にスムーズに誘導出来るようになる。	まずは施設職員一人一人が、避難誘導の経路の確認、消火器の使用方法の確認を行い、消防署の指導、協力を得た避難訓練を実施する。	3ヶ月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。